2025（令和7）年度　第2回　サロン・ド・大学コンソーシアム大阪
生成 AI を「頼れるパートナー」に！大学職員のための AI 活用・習慣化講座
ー基礎の復習から実践ノウハウまでー
開催報告

日　　時：2025（令和7）年 10 月 24 日（金）18：00～20：00
会　　場：キャンパスポート大阪（大阪市北区梅田1-2-2-400　大阪駅前第2ビル4階）
講　　師：森木　銀河氏（元　九州大学　インスティテューショナル・リサーチ室　学術推進専門員）
司 会 進 行：佐藤　浩輔氏（大学コンソーシアム大阪　研修部会推進委員／
大阪体育大学　庶務部　学長室担当　チーフ）
申 込 者 数：19 大学 36 名（うち会員外3大学3名）
参 加 者 数：18 大学 32 名（うち会員外3大学3名）
実 施 結 果：大学コンソーシアム大阪 HP の「参加者アンケート」参照
企 画 ・ 運 営：大学コンソーシアム大阪 研修部会推進委員会

1．開催概要
本講座では、単なるプロンプト（指示文）のテクニック習得だけではなく、「AI に思考を預けるのではなく、指示を明確に言語化し、最終的な生成物には人間が責任を持つ」という AI との本質的な向き合い方に焦点を当て、生成 AI を真の「頼れるパートナー」へと変えるための手段を学ぶ。また、それを通して、質の高い業務と時間創出の実現を目指すものである。

2．開会挨拶
AI の導入が大学にとって現実的なものとなり、いまや AI は大学職員の業務における新しいパートナーになりつつある。一方で、その位置付けや任せる業務の範囲等については、検討が必要な事項も多い。本日は基本的な仕組みから実践まで幅広く学ぶ予定であり、ぜひ豊富な知見を持ち帰っていただきたい。また、参加者同士も積極的に情報交換し、交流を深めてほしい。

司会・開会挨拶：佐藤委員

3．講義概要
※講義中は各参加者が ChatGPT を実際に使用しながら、実践的に知見と理解を深めた。

＜導入＞
生成 AI の初歩的な使い方として、まずはメモ帳代わりに活用することを薦めたい。自身の考えなど“何か”を自由に入力しておけば、後でそれを集約・要約することができる。また、チャット欄に質問等を入力すると回答を返してくれる。ときには尋ねていないことまで教えてくれることもあるので、肩肘張らず、気軽に使うことから始めてみてほしい。

＜生成 AI の基本＞
ChatGPT を含む「生成 AI」の定義は、いまだ確立されたものはなく、後追いで定義されているのが実情である。一般的には、文章、画像、プログラム等、多様なコンテンツを生成できる AI モデルに基づく技術の総称である。これらの AI モデルは、開発者が事前にインターネット上の文章等を大量に学習させ、社会性を持たせる等の調整（アライメント）を行うことで最適化されている。

講師：森木　銀河氏

＜生成 AI（ChatGPT）の機能＞
ChatGPT の基本的機能は、大きく以下の２点に整理できる。
①　テキスト生成
AI が勝手に文章を生成するわけではなく、プロンプト（指示文）を入力することで初めてテキストが生成される。生成される内容は、事前に学習させた大量のデータから導き出される。

② Web 検索
生成 AI には当初、リアルタイムで情報を取得する仕組みはなかったが、近年では Web 検索機能が実装され、最新の情報を参照できるようになった。

①および②の基本機能に加え、最近の ChatGPT には画像生成、動画生成等、様々な機能が実装され、「スーパーアプリ化」が進んでいる。これは従来型携帯電話（ガラケー）がスマートフォンへと進化した過程によく似ており、単純な処理機能を備えたツールから、総合的なプラットフォームへと目覚ましい進化を遂げつつある。
これらの機能の一つとして「ディープリサーチ」がある。これは、複数の情報源を比較し、背景や理由まで深く掘り下げて分析する調査手法であり、仮説の設定、検証、信頼性の評価を行いながら、目的に応じて情報を整理する点に特徴がある。企画立案や戦略策定などで使える実践的な知見を得ることができ、大学業務においてもきわめて有用な機能である。

＜生成 AI の選び方＞
生成 AI には ChatGPT のほか、Google AI Studio、NotebookLM、Microsoft Copilot など、多様なサービスが存在する。
個人の日常や趣味の範囲など機密情報を扱わない場合は Google AI Studio、NotebookLM、安全性や信頼性に課題がある場合は ChatGPT、Microsoft Copilot の使用を推奨する。また、品質・精度に課題がある場合は Claude Pro 等の上位プランを検討するか、AI エンジニアを擁する企業へ相談するのも一案である。
なお、生成 AI は機能や仕様が予告なく更新されることが多く、特定機能への依存は避けることが賢明だ。“変化を強みに変える”という意識も持っておきたい。また、アップデート後の機能は、頭で理解しようとするよりも実際に使いながら慣れることを薦めたい。

＜生成 AI の活用＞
生成 AI の便利な活用方法として、3つの使い方とその要点を紹介する。

① 軽く相談する
相談内容は、例えば「無条件に褒めてほしい」などのメンタルケア的なものでも構わない。うまく使おうと力む必要はなく、まずは気軽に使ってみることが大切である。他にも、分からない言葉の意味や類義語を尋ねるといったことなども試してみてほしい。Web 検索と違い、プロンプト次第で単なる解説ではなく、自身の業務や志向に合わせてパーソナライズされた答えが得られるだろう。

② 文章を要約する
要約においては、「すでに持っている情報を惜しみなく与えること」、「要約は情報の変換であること」の２点を意識しつつ、的確なプロンプトを入力する必要がある。よりよいプロンプトの一例としては、以下のようなものがある。
- ▸命 令 書 ：AI のペルソナを指定（例：「あなたはプロの編集者です」）
- ▸制約条件 ：具体的な要件を指示
  （例：「簡潔に要点が理解できるようなストーリーを見出し付きで明確に。対象は高校生」）
- ▸入 力 文 ：要約の対象となる文章を提示
- ▸出力形式 ：形式や長さ・項目数等を指定
  （例：「50 字以内」「原文の 1/3 の長さ」「3～5 項目の箇条書き」）

③ 文章を生成する
実は生成 AI は、前述の2つの機能（相談・要約）に比べ、文章生成は得意ではない。文章生成の本質は“後続する文章を作ること”であり、利用者は AI が続きを書きやすいように“入口となる文章”を提示する必要がある。例えばメールを作成してほしい場合は、20%程度を自分で書いたうえで、残りを AI に任せることを薦めたい。また、情報をできるだけ多く与え、的確なプロンプトを入力する必要があるのは、要約の場合と同じである。
なお、生成 AI は過去の応答を参照するため、同じプロンプトを入力しても、出力される内容に個人差があることも覚えておいてほしい。

＜総括＞
「相談」、「要約」、「生成」の3つの活用法に言及してきたが、このほか利用者の作成した文書等に間違いがないかをチェックさせるといった使い方もある。総じて、生成AIを用いてできることは、利用者の志向や能力を伸ばす「拡張」であるといえよう。（相談して気持ちが楽になるのも広い意味での「拡張」といえる。）

一方で、AI は人間に近しいもののように感じるが、人間そのものではない。賢いが、意外と不得意なことも多く、基本的には「指示があって初めて動く存在」である。AI に責任を転嫁するのではなく、最終的な確認はあくまで人間が行うという意識を持っておいてほしい。

4. 質疑応答

質問1：生成 AI の利用を重ねることで、独自の癖が生じることはあるか。
回答1：ChatGPT に関しては、そのような傾向が生じる場合があるが、設定によって調整が可能である。

質問2：組織全体で使用する際、運用方針やガイドラインは必要か。また制定・改訂時に留意すべき点はあるか。
回答2：運用方針はいわば方向性を示す「コンパス」であり、ガイドラインは道筋の描かれた「地図」である。ガイドラインの有無は大学により異なるだろうが、適切な運用にはコンパスだけではなく明確な地図が必要である。大学の事例としては、武蔵野大学のガイドラインが参考になる。

5. 情報交換会

本編の終了後には、参加者と講師による情報交換会が開催され、大学を越えたネットワーキングが図られた。

会場の様子

情報交換会の様子

6. 参加者アンケート結果

「参加者アンケート」に掲載

※参考資料

生成 AI 利用者のためのプロンプトガイド　：　https://promptforus.com/

以上